

研究区分	学部研究推進
------	--------

研究テーマ	ムセイオン静岡を通じた地域一体型教養教育モデルの探究（3）				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・特任教授	氏名	富沢 壽勇
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	細川 光洋
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	富澤 かな
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	森 直香
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	米山 優子
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	鈴木 さやか
		所属・職名	短期大学部こども学科・准教授	氏名	藤田 雅也
		所属・職名	短期大学部こども学科・講師	氏名	山本 学
	所属・職名	ムセイオン静岡顧問・非常勤講師	氏名	立田 洋司	
発表者	所属・職名	国際関係学部・特任教授	氏名	富沢 壽勇	

講演題目	ムセイオン静岡を通じた地域一体型教養教育モデルの実践
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>本研究の目的は7つの文化教育機関（本学、県立美術館、県立中央図書館、県埋蔵文化財センター、舞台芸術センター（SPAC）、グランシップ、ふじのくに地球環境史ミュージアム）の連携枠組みとして定着しつつある「ムセイオン静岡」を通じ、さらに地域社会とも連携しながら本学の教養教育を実験的に展開し、真の生きた教養教育とは何かを追究し実践して行くことにある。具体的には、全学共通科目「舞台芸術」「MUSEUMと文化」「世界の文化遺産」などの授業を通じて、ムセイオン関連の文化教育機関と本学との人的交流を深め、地域社会で本学の文化教育活動における触媒的機能を高めるとともに、学生にはこれらの諸機関を通じて生きた教養を体得する機会を提供する基盤形成を目指す。そして、本学を中心にムセイオン静岡関連諸機関のヨコの連携とネットワーク作りを計りつつ、さらにタテ軸としての地域社会が有する文化資源、社会資本を教養教育に最大限に活用するモデルを構築することが本研究の重要な目的となる。</p> <p>本プロジェクトによる諸機関の交流事業は、すでに二年目に入った新型コロナ禍の状況により大幅に制限される結果になったことは否めない事実だが、もはや恒例となったこどもプロジェクトの世界児童画展は今年度も無事開催でき、グローバル次元の異文化体験を本学学生や地域の親子に共有してもらう機会を提供したり、広域ヨーロッパ研究センターとの共催で文化講演会を実施したり、SPAC俳優の指導と協力参加を得て本学学生の小説朗読会を開催したり、さらに言語コミュニケーション研究センターの同じくSPAC俳優を招いての身体表現ワークショップをサポートするなどを通じて端的に伺えるように、これまでムセイオン事業で積み上げて来た人脈と経験知の活用と成果は着実に本学全体に普及浸透しつつある。このような一連の文化プロジェクトを通じて、関係諸機関や地域社会と連携した教養教育のモデルは相当に整備されつつあり、今後はこれをさらに定着させ、その裾野を拡大して行くことが期待できる。</p>